

東京23区の物価および生活比較調査

渡辺 純子

(平成9年10月2日受理)

A Comparison Survey of Prices and Life on The 23 wards of Tokyo

Sumiko WATANABE

(Received on October 2, 1997)

<はじめに>

東京都の人口の3分の2を擁している、東京23区の生活実態について、役所等の公的機関が発表する場合、「都区部」と一括したかたちが通例となっているが、各区の諸条件は異なるはずであり、「都区部」という一括表現は、実情に合わないのではないかと考え、各区の相違を把握するために、調査を試みることにした。

<調査方法および調査時期>

1. 23区毎の物価調査<調査1>

物価調査は同時期に実施しなければならないため、本学の学生を調査員として、各区2名ずつを当て、調査地区(場所)が重複しないように配慮し、商店の店頭での価格調査を実施した。

調査対象の商店は、「スーパー・マーケット」および「一般小売店」とした。

調査時期は、1995年9月11日～9月14日の4日間である。

2. 23区居住者を対象のアンケート調査<調査2>

調査対象は、本学の卒業生および日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会会員の中から、23区居住者を居住地が重複しないよう、各区毎に、10名ずつを選び、質問紙を郵送し、回答後に返送を依頼するかたち(質問紙法および郵送法)である。

調査時期は、1995年9月～10月とした。

<調査内容>

1. 23区毎の物価調査<調査1>

生鮮食料品、加工食品、調味料、日用雑貨品、家賃など、40品目を調査対象とした。

2. 23区居住者対象のアンケート調査<調査2>

調査内容は表1のとおりである。

<調査結果>

1. 23区毎の物価調査結果<調査1>

生鮮食料品の野菜や魚類の調査が指定どおりに行われていなかった例が多く(重量単位での調査を指示したにもかかわらず、個数単位での記録が多く)、比較資料となり得ないものが若干存在したため、比較可能な単位の品目の中から、12品目を選び、数値を指数化し、比較一覧図とした。(図1)

なお、一覧図の配列は、東京都の地図帖の順序に従った。

12品目平均の指数を高い順にみると、①港(137.2)②千代田(124.8)③中央(110.9)④渋谷(108.2)⑤文京(107.0)⑥品川(104.7)⑦目黒(104.4)⑧新宿(104.3)⑨大田(103.4)⑩杉並(103.1)⑪台東(102.2)⑫豊島(99.9)⑬中野(99.6)⑭江東(95.3)⑮墨田(93.9)⑯板橋(92.7)⑰荒川(92.2)⑱世田谷(91.8)⑲練馬(88.8)⑳葛飾(87.5)㉑北(86.3)㉒江戸川(81.4)㉓足立(80.3)という結果となった。

2. 23区居住者の生活調査結果<調査2>

調査用紙の配布数は230部で、回収数は200部

アンケート

〔A〕各項目について、該当するものを○でかこんで下さい。項目によっては、()内に数字を、また、「その他」に回答の場合は、()内にも、記入して下さい。

1. 年齢 : 20代, 30代, 40代, 50代, 60代, 70歳以上
2. 結婚について : 未婚, 既婚
3. 同居家族 : あなたを除いて、()人〔内訳: 親, 子, 兄弟姉妹, その他()〕
4. 職業等 : 主婦, 勤め人, 自営業, 自由業, その他()
5. 住宅 : 一戸建て(持ち家, 借家), 集合住宅(分譲, 賃貸), その他()
6. 最寄り駅までの所要時間 : 約()分
7. 現在地に住まれて、どの位になりますか?
 - イ. 生まれた時から住んでいる, ロ. ()年になる
8. 現在地の住みごちはいかがですか?
 - イ. 快適, ロ. 交通の便がよくない, ハ. 買い物に不便, ニ. 物価が高い, ホ. その他()

〔B〕各項目の該当するものの符号を○でかこんで下さい(複数回答可)。

なお、「その他」に回答の場合は、()内の記入もお願いします。

1. あなたのお宅では、生鮮食料品をどのくらいの間隔で購入しますか?
 - イ. ほとんど毎日, ロ. 1日おき, ハ. 2～3日おき, ニ. 4～5日おき, ホ. 1週間分をまとめ買い, ヘ. その他()
2. 食料品は、おもに、どこで購入しますか?
 - イ. 近くの小売店, ロ. スーパー・マーケット, ハ. デパート, ニ. その他()
3. 日用雑貨品は、おもに、どこで購入しますか?
 - イ. 近くの小売店, ロ. スーパー・マーケット, ハ. デパート, ニ. ディスカウント・ストア, ホ. その他()

4. 商品の選択は、一般に、何を基準にしていますか?

- イ. メーカー名, ロ. 価格, ハ. 広告, ニ. 店頭で見て, ホ. 店員のすすめ, ヘ. 商品テストなどの結果を参考に, ト. その他()

5. 現在、お住まいの場所は、商店の分布が適当ですか?

- イ. 適当, ロ. 一般小売店が少ない, ハ. 大型店がない, ニ. その他()

6. 現在お住まいの地域の物価は、いかがですか?

- イ. 全般に安い, ロ. 全般に高い, ハ. 安いものもあるが、高いものもある, ニ. その他()

7. 6でハにお答えの方、具体的に教えて下さい。

安いもの()

高いもの()

8. 「通信販売」を利用しますか?

- イ. よく利用する, ロ. 時々、利用する, ハ. 利用したことはあるが、現在は利用していない, ニ. 全く利用しない,

9. 「クレジットカード」をお持ちですか?

- イ. 持っている()枚, ロ. 持っていない

10. クレジットカードをお持ちの方、利用状況を教えてください。

- イ. よく利用する, ロ. 時々、利用する, ハ. ほとんど、利用しない, ニ. 全く利用しない

11. 現在、経済的に負担を感じるものがありましたら、順位をつけて下さい。

(3つ以内でお願いします)

- イ. ()食料費, ()住居費, ()光熱・水道費, ()被服費, ()家具・家事用品, ()教育費, ()教養娯楽費, ()交際費, ()保健・医療費, ()交通・通信費, ()その他〔
ロ. 経済的負担を感じるものはない

◎お住まいは、()区。

ご協力ありがとうございました。

図1 東京23区の価格調査結果
(調査時期：1995年9月11日～9月14日)

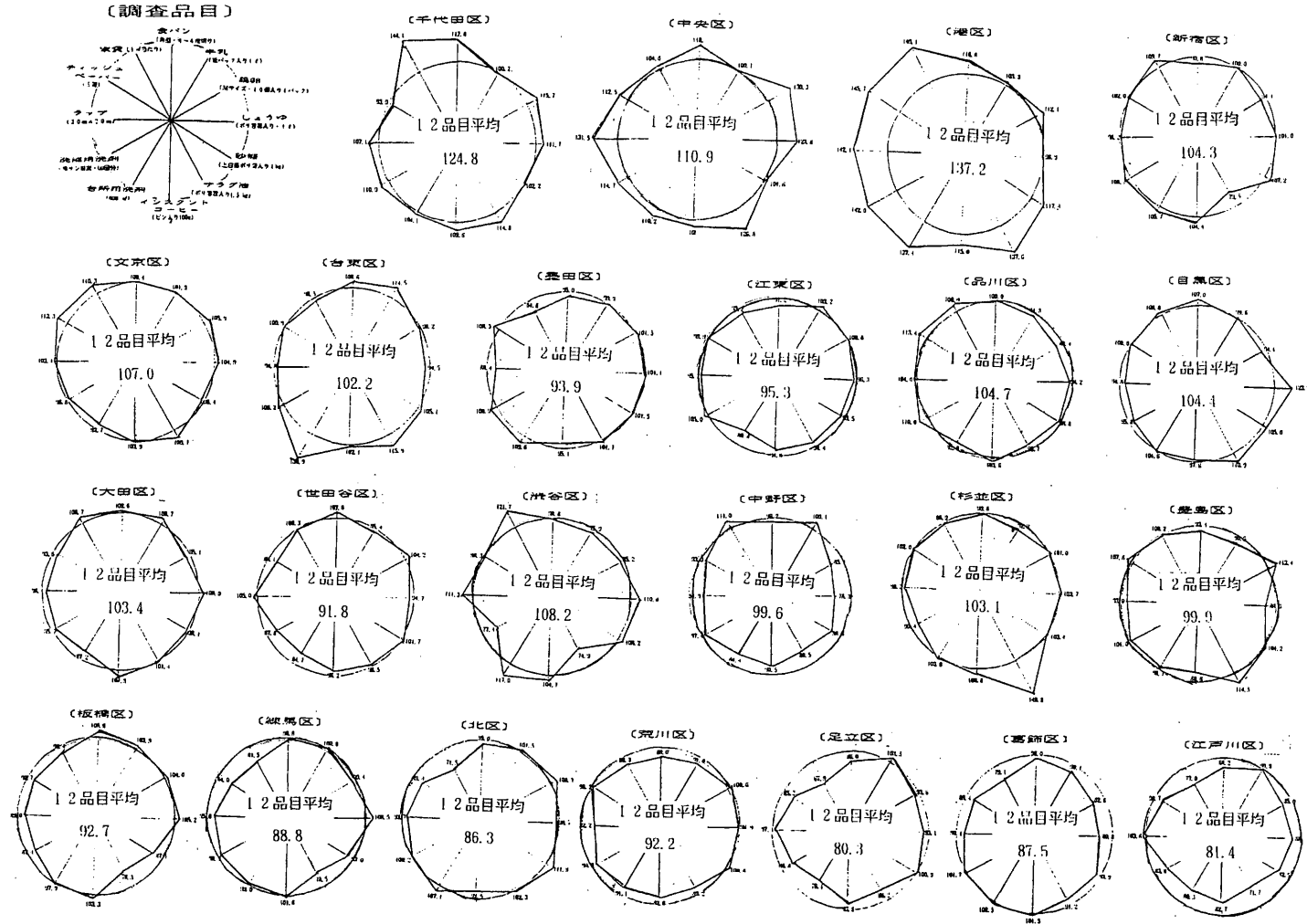


表2

(1) 23 区別・回答者内訳

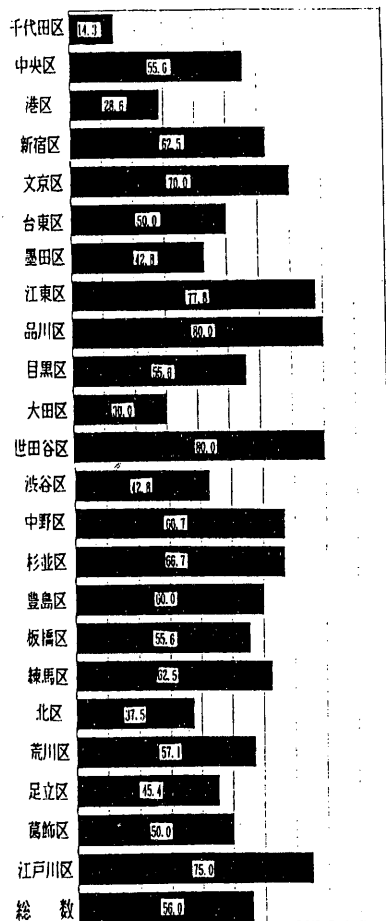
	職 業		家 族 数								一 戸 建		集合住宅		その他等
	有職	無職	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	その他	持家	賃貸	分譲	賃貸	
目黒区	5	2		2	1	2	1	1			2		3		2
中央区	2	7	1	2	3	1		2			2		1	3	3
港 区	2	5			2		4		1		7				
新宿区	6	2		1	3	3				(1)	1		6		1
文京区	3	7	2	4	1	2		1			4		1	4	1
台東区	3	5	2	1	2	2	1				6			1	1
墨田区	2	5		3	1	1	1	1			2		2	1	2
江東区	6	3		1	2	4		2			4		5		
品川区	5	5			3	3	3			(1)	6		2	1	1
目黒区	4	5	1		4	2	1	1			5		2	1	1
大田区	6	4		3	2	3		1	1		6		1	1	2
世田谷区	1	9		4	3	3					5		3	2	
渋谷区	2	5		2	1	1	1	1	1		3		1		3
中野区	6	3			2	5	1	1			4	1	2		2
杉並区	5	4		1	1	4		2	1		3			2	4
豊島区	3	7		2	2	3	2			1	7	1		1	1
板橋区	6	3	1		2	6					4		2	3	
練馬区	2	6		3	3	2					3	1	2	2	
北 区	3	5		1	3		2	1	1		4		3	1	
荒川区	2	5	1		1	3		2			3		2	1	1
足立区	5	6			1	6	2	1	1		8		2	1	
葛飾区	5	5		2	1	4	2		1		7	1	2		
江戸川区	6	2		4		1	1	1	1		6		2		
総 数	90	110	8	36	44	61	22	18	8	1(2)	102	4	44	25	25

(2)・年代別・回答者内訳

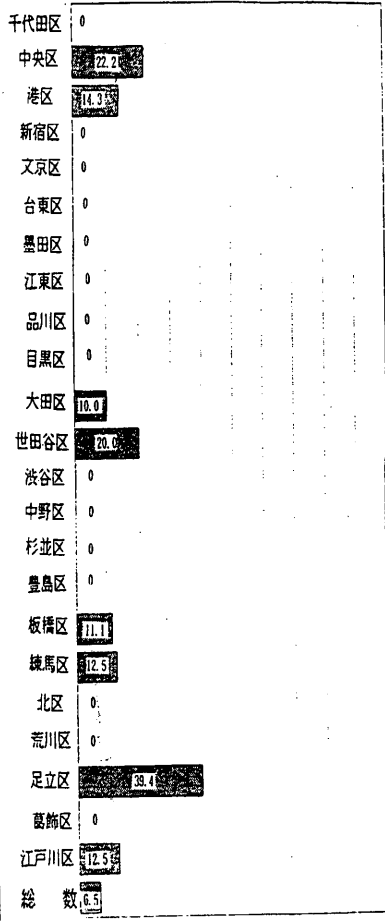
	職 業		家 族 数								一 戸 建		集合住宅		その他等
	有職	無職	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	その他	持家	賃貸	分譲	賃貸	
20代	2	1		1	1	1					1		1	1	
30代	19	22		7	11	16	1	3	3		9	1	14	9	8
40代	33	47	1	6	13	34	11	11	3	(1)	40	2	18	10	10
50代	23	19	2	8	10	7	8	4	2	1	27	1	8	4	2
60代	13	16	4	11	9	3	1			(1)	21		3	1	4
70以上	0	5	1	3			1				4				1
総 数	90	110	8	36	44	61	22	18	8	1(2)	102	4	44	25	25

注：家族数欄の「その他」は、() なしは8人家族、() 付きは家族数が不明

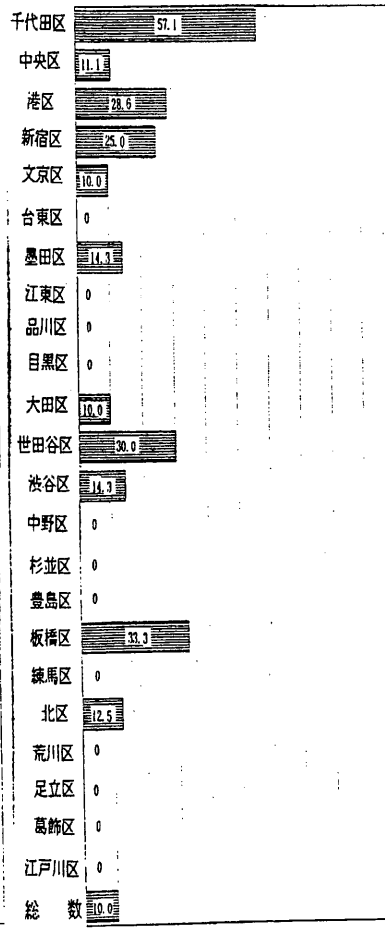
快適



交通の便が良くない



買い物に不便



物価が高い

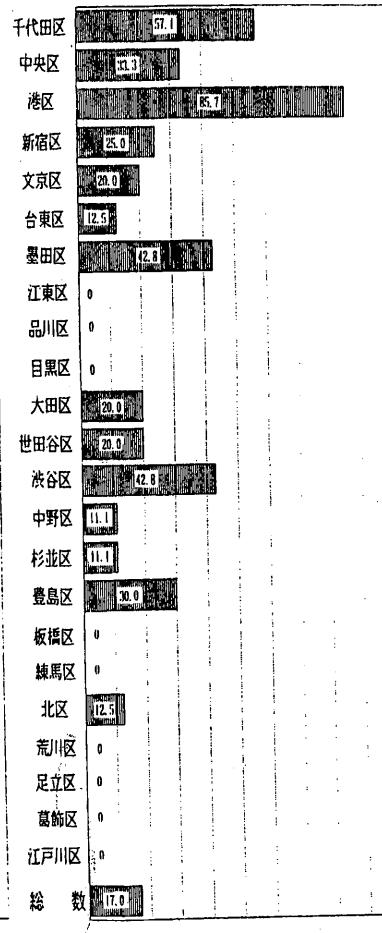


図2 住み心地 (%)

(回収率・87%), 回答者の内訳は、表2のとおりである。なお、足立区の回答者数が11名となっているが、他区からの移転者である。

3. 調査結果の具体的内容

1) 23区別・調査結果

(1) 住み心地(図2)

現在の居住地が「快適」であると答えた人は、回答者全体の過半数(56.0%)で、23区別にみると、「快適」の回答が過半数を超えた区は14区あり、特に、「快適」の回答が7割以上を占めた区は5つ(品川、世田谷、江東、江戸川、文京)存在した。一方、「快適」の回答が少なかったのは、千代田区(14.3%)、港区(28.6%)、大田区(30.1%)、北区(37.5%)である。

快適か否かの理由について、他項目の回答から検討してみると、「快適」の回答が多かった区の場合、「交通の便が良くない」、「買い物に不便」、「物価が高い」などの回答が0または、低率であったが、「快適」の回答が最低の千代田区の場合、「買い物に不便」、「物価が高い」が共に高く、また、「その他」の欄には、『車が多くて、子どもの遊びに不都合』、『日当たりが悪い』、『年寄りが多く若者が少なくなった』等の記述があり、「快適」の回答の2番目に少ない、港区の場合は、「物価が高い」の回答が23区中、最高(85.7%)で、「快適」が3番目に少なかった、大田区の場合は、「その他」の欄に、『空気が悪い』、『子どもの遊び場が少ない』、『便利であるが、環境が悪い』、『うるさい』等の記述があった。

「その他」欄に、『便利であるが、環境が良くない』の記述があったのは、15区(千代田、台東、墨田、江東、品川、目黒、大田、渋谷、中野、杉並、豊島、北、荒川、葛飾、江戸川)である。なお、『環境がよくない』の具体的な記述は、「空気が悪い」「緑が少ない」「車が多い」「家が密集している」「うるさい」「道が狭い」「日当たりが悪い」等であった。

(2) 商品の購入実態

① 商店の分布状況(図3)

居住地の商店の分布が「適当」の回答は、回答者全体の約半数(49.5%)であったが、23区別にみると、「適当」の回答が0(千代田)が存在する一方、「適当」の回答が多い区(葛飾、江戸川、品川、江東、目黒、杉並)が存在し、区によって、かなり異なっている。

「適当」の回答が0または、低率の区(千代田、港、

新宿、文京、世田谷、荒川)は、「一般小売店が少ない」または、「大型店がない」の回答が高率で、特に、千代田、港、文京の3区は、「一般小売店が少ない」と「大型店がない」の二つ共に、回答が多い結果であった。

「その他」欄には、『大型店が少ない』(江東区)、『大型店がないのみならず、一般小売店も少ない』(荒川区)、『商店が多すぎる』(荒川、江戸川区)、『大型店やディスカウントストアはないが、コンビニが多く便利』(新宿区)の記述があった。

居住地の商店の分布と買いものとの関係についてみると、商店の分布が「適当」が0であった、千代田区の「住み心地」項目(図2)の「買い物に不便」の回答が最高率(57.1%)であり、商店の分布が「適当」が高率(7割以上)の区(江東、品川、目黒、杉並、足立、葛飾、江戸川)は、すべて、「買い物に不便」の回答が0であった。

② 食料品の購入場所(図4)

食料品の購入店は、回答者全体では、「スーパー・マーケット」が最も多く(78.0%)、次いで、「近くの小売店」(49.0%)、「デパート」(27.0%)となっている。

23区別にみると、「スーパー・マーケットを利用」の回答が少ないのは、中央区(22.2%)、「近くの小売店を利用」が少ないのは、新宿区(12.5%)、世田谷区(20.0%)、足立区(36.4%)が目立っている。

また、「デパートを利用」の回答が多いのは、千代田区(85.7%)、文京区(60.0%)、新宿区(50.5%)、港区、渋谷区(共に、42.8%)であった。

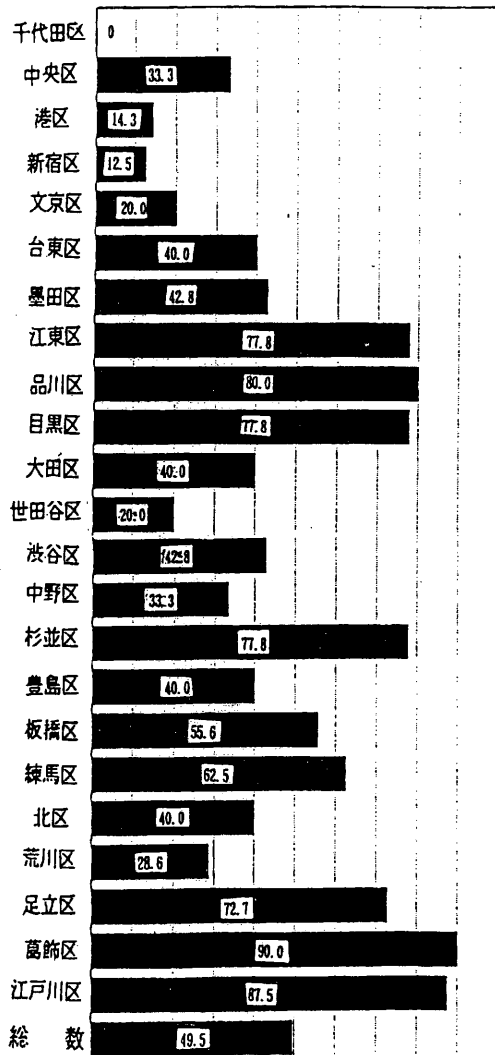
「その他」欄には、『生協』(18区)、『宅配車などの行商』(5区)等の記述があった。

③ 日用雑貨品の購入場所(図5)

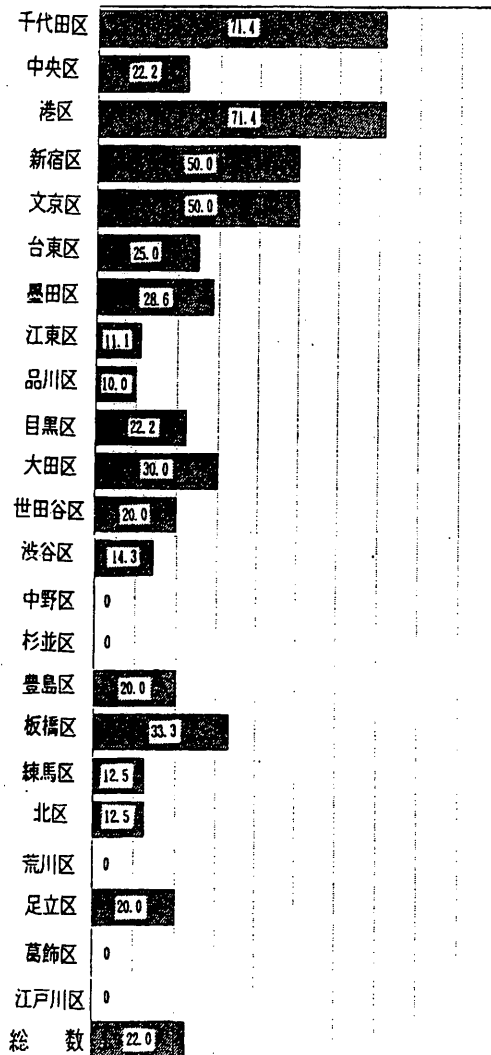
日用雑貨品の購入店は、回答者全体では、「スーパー・マーケット」(73.5%)、「近くの小売店」(37.0%)、「ディスカウント・ストア」(27.5%)、「デパート」(15.0%)という結果で、食料品と同様に、スーパー・マーケットの利用者が圧倒的に多い。

23区別にみると、「スーパー・マーケットを利用」の回答が少ないのは、食料品と同様に、中央区(33.3%)、「近くの小売店利用」の回答が少ないのは、新宿区、墨田区(共に、0)、板橋区(11.1%)、千代田区(14.3%)で、「デパート利用」の回答が多いのは、千代田区(71.4%)、「ディスカウント・ストア利用」が多いのは、墨田区(71.4%)、目黒区(55.6%)となっている。

適当



一般小売店が少ない



大型店がない

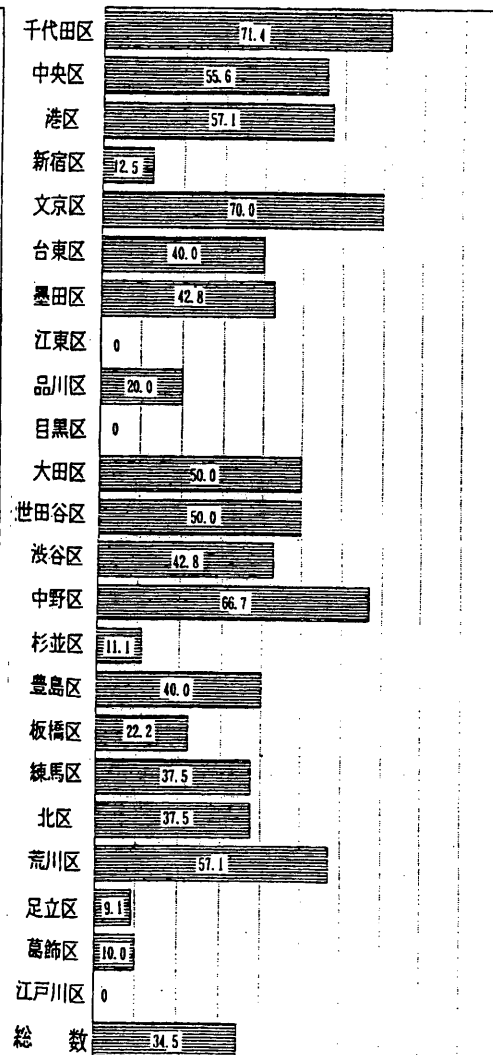
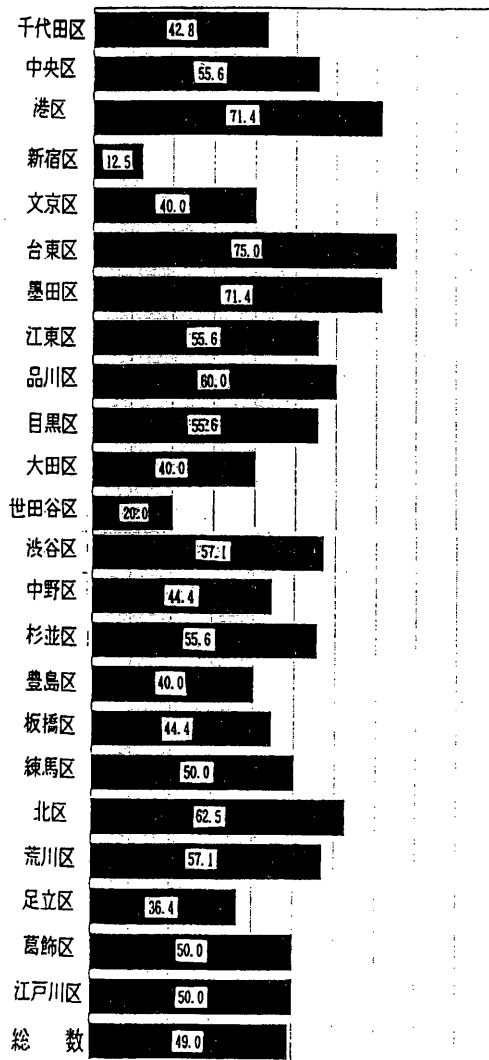
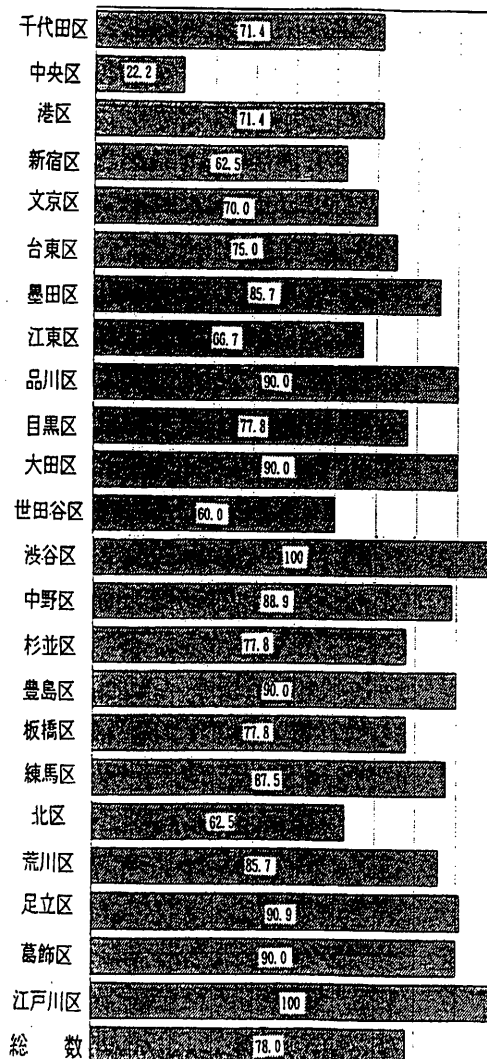


図3 商店の分布 (%)

近くの小売店



スーパー・マーケット



デパート

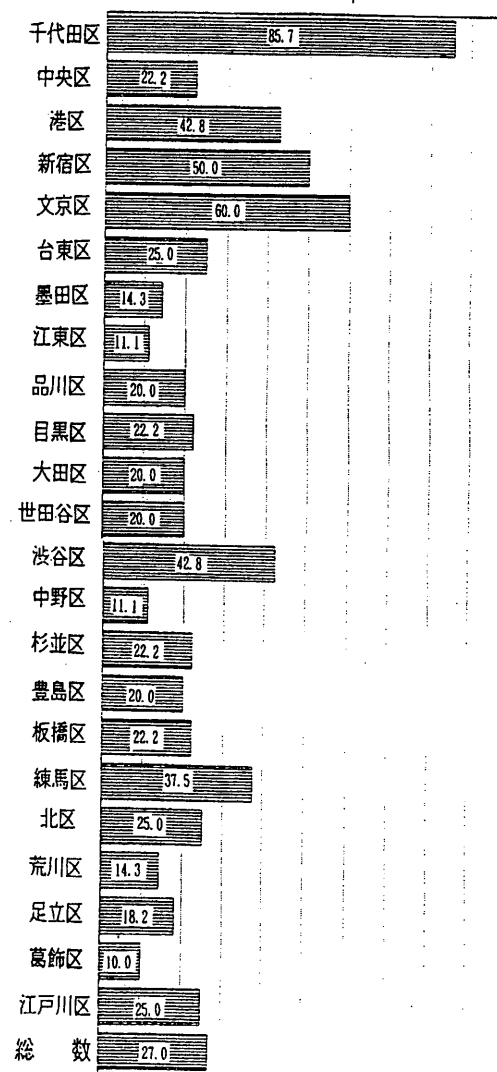


図4 食料品の購入場所 (%)

近くの小売店

スーパーマーケット

デパート

ディスカウントストア

東京23区の物価および生活比較調査

(47)

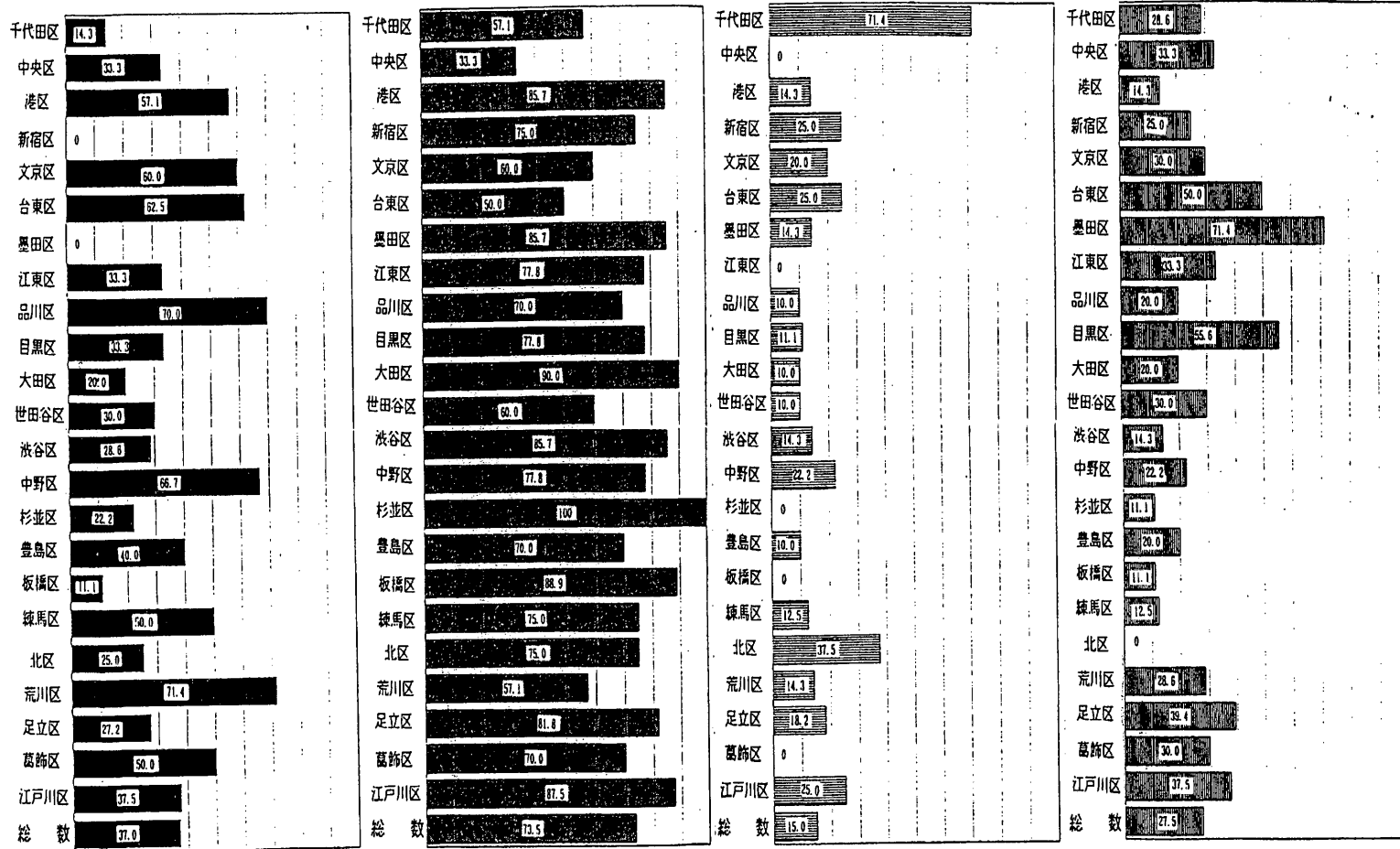


図5 日用雑貨品の購入場所

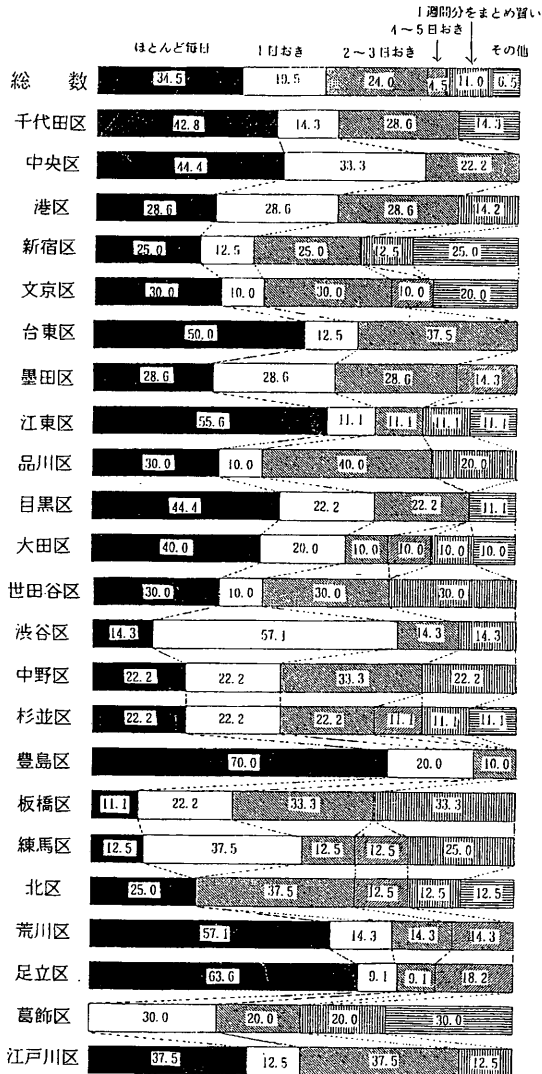


図6 生鮮食料品の購入間隔 (%)

なお、食料品の場合には、「デパート利用」が0の回答はなかったが、日用雑貨品の場合は、5区（中央、江東、杉並、板橋、葛飾）存在した。「その他」欄には、『生協』（13区）、『ドラッグ・ストア』（3区）の記述があった。

④ 生鮮食料品の購入間隔（図6）

生鮮食料品の購入間隔は、回答者全体でみると、「ほとんど毎日」(34.5%)が最も多く、次いで、「2～3日おき」(24.0%),「1日おき」(19.5%),「1週間分をまとめて」(11.0%),「4～5日おき」(4.5%)の順となっている。

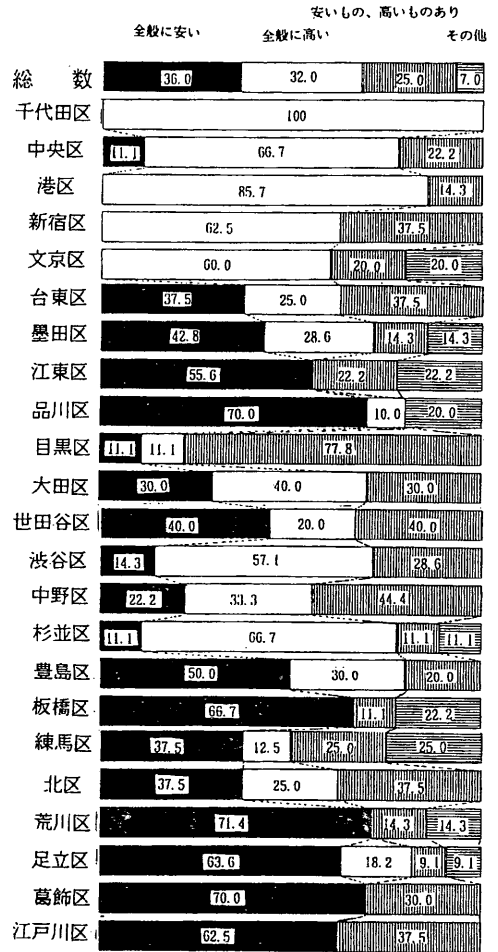


図7 住居地の物価 (%)

23区別にみると、「ほとんど毎日」の回答が半数以上の区は、豊島区（70.0%）、足立区（63.6%）、荒川区（57.1%）、江東区（55.6%）、台東区（50.0%）であった。なお、「ほとんど毎日」の回答が0の区は、葛飾区のみであった。

「1週間分をまとめて」の回答が平均を上回った区は板橋区(33.3%), 世田谷区(30.0%), 練馬区(25.0%), 中野区(22.2%), 品川区, 葛飾区(共に, 20.0%)であった。

「その他」欄の記述は、『4～5日おき、または、1週間』（千代田区）、『ほとんど毎日または、2～3日お

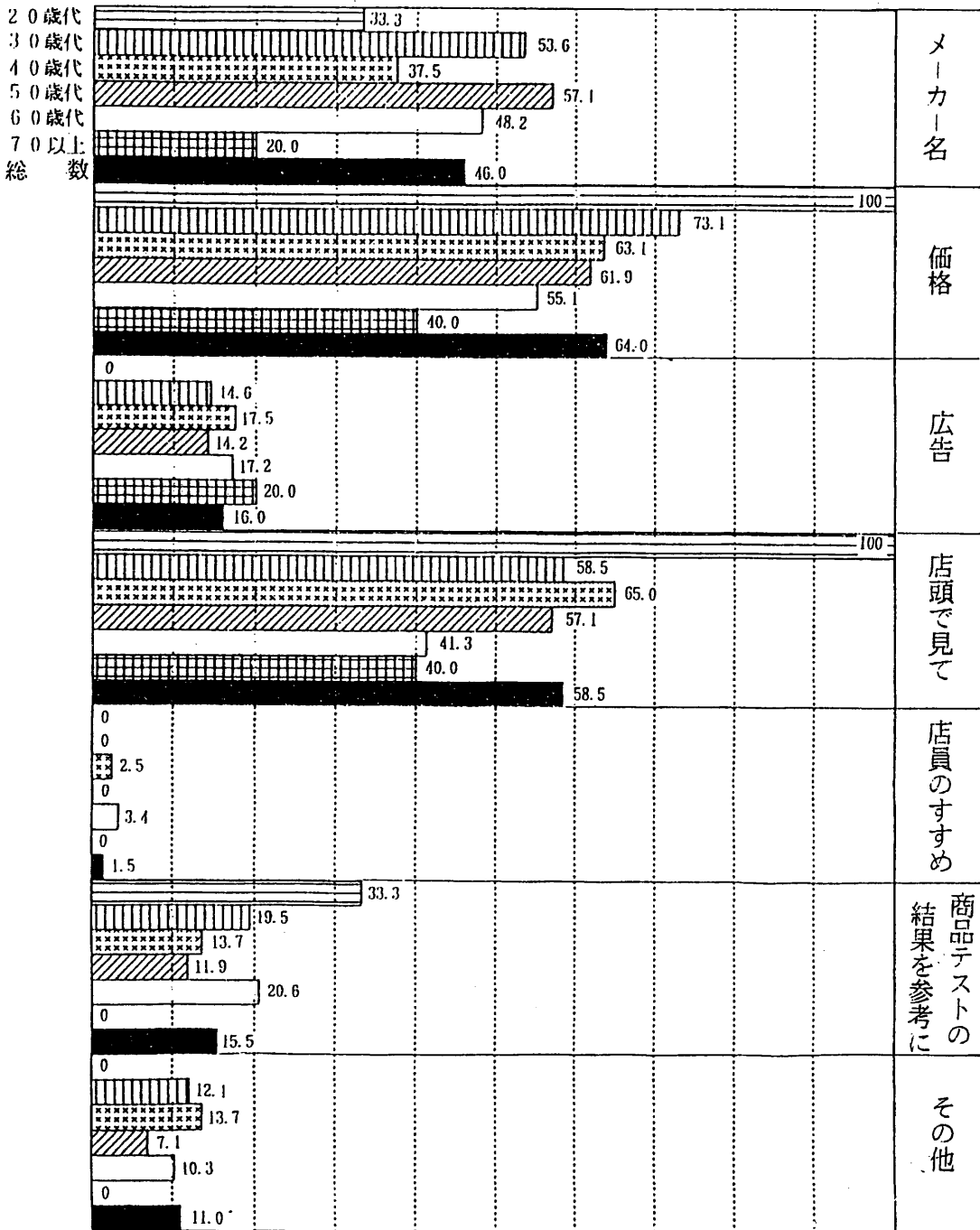


図8 商品の選択基準 (%)

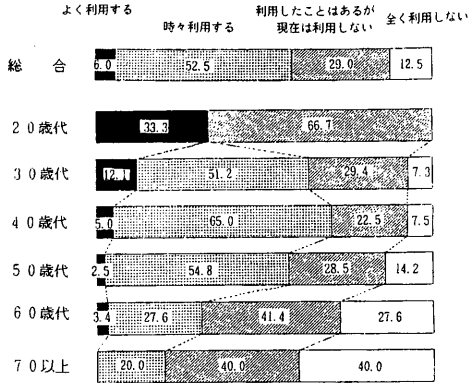


図9 通信販売の利用状況 (%)

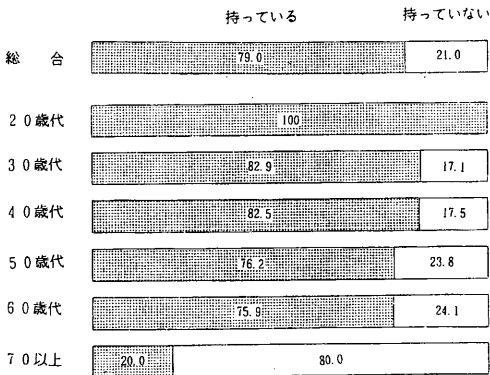


図10 クレジットカードの保有状況 (%)

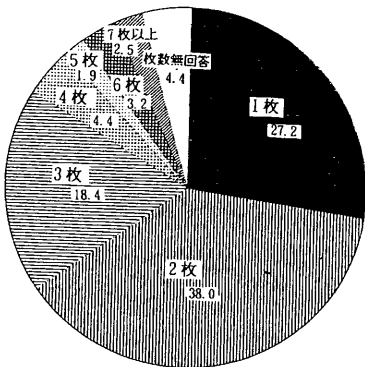


図11 クレジットカードの保有枚数 (%)

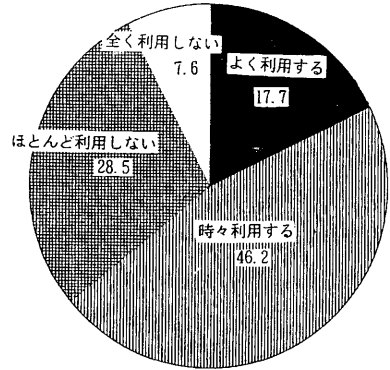


図12 クレジットカードの利用状況 (%)

き』(新宿区),『1週間分+不足分を補充』(文京, 杉並, 北区),『1日おき, または, 2~3日おき』(文京区),『1日おき, または, 1週間分』(江東, 目黒区),『ほとんど毎日, または, 2~3日おき』(大田区),『2~3日おき, または, 4~5日おき』(葛飾区),『2~3日おき, または, 1週間分』(葛飾区)であった。

生鮮食料品の購入間隔と回答者の職業の有無との関係を見たところ, 大きな違いは認められなかった。

また,「ほとんど毎日」の回答が低率の区の中には,『生協を利用』の回答割合が多い区(葛飾, 板橋, 新宿, 杉並, 練馬)が存在する。

(3) 物価について

① 住居地の物価(図7)

回答者全体では, 物価が「全般に安い」(36.0%)が「全般に高い」(32.0%)を上回っており, また,「安いものもあるが, 高いものもある」の回答が25.0%存在した。

23区別にみると,「全般に安い」の回答割合が過半数の区は, 7区(荒川, 品川, 葛飾, 板橋, 足立, 江戸川, 江東)で,「全般に高い」の回答が過半数であった区も, 7区(千代田, 港, 中央, 杉並, 新宿, 文京, 渋谷)存在した。

「安いものもあるが, 高いものもある」の回答が平均を上回ったのは, 目黒, 中野, 世田谷区であった。

なお,「安いもの」,「高いもの」についての記述内容は, 同区内で, 同種のものがあり, また,『店によって異なる』の記述も存在した。

物価について,「住み心地」項目(図3)の回答結果と照らし合わせてみると,「住居地の物価」項目(図7)で,『全般に安い』の回答割合が高かった区(荒川, 品

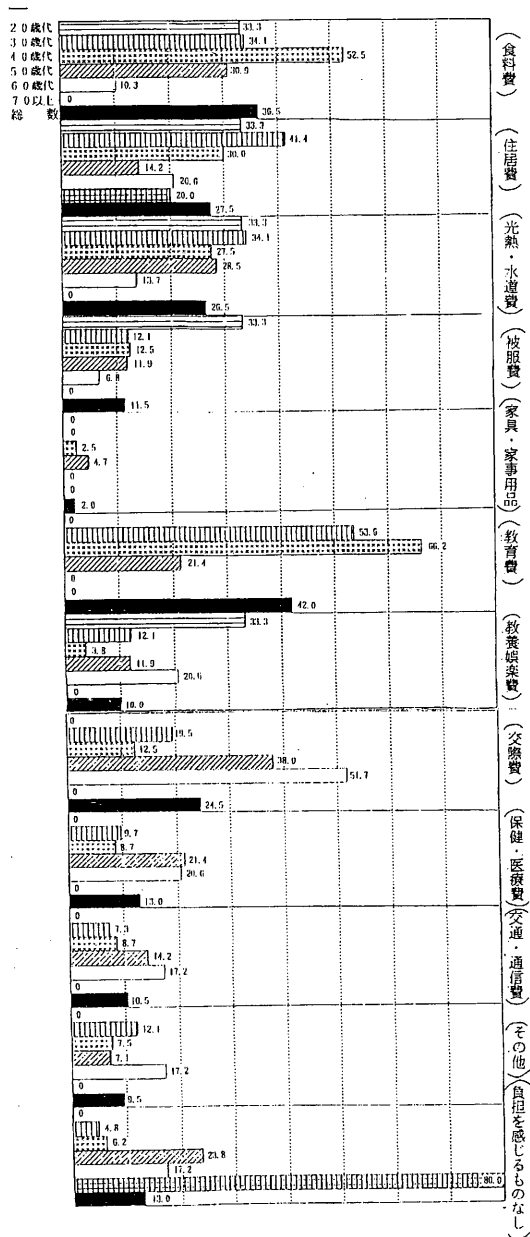


図13 経済的負担を感じるもの (%)

川、葛飾、板橋、足立、江戸川、江東)は、いずれも、「住み心地」項目の『物価が高い』の回答は0であったが、「住居地の物価」が『全般に高い』の回答割合が高かった区(千代田、港、中央、杉並、新宿、文京、渋谷)の場合は、「住み心地」項目の『物価が高い』の回答割合とは、必ずしも一致していない。

② <調査1>と<調査2>との比較

23区の居住者対象の調査<調査2>で、「住居地の物価」(図7)が『全般に安い』の回答割合が高かった区(荒川、品川、葛飾、板橋、足立、江戸川、江東)について、<調査1>(図1)の結果を見てみると、品川区を除いて、すべて、平均以下の指数であり、また、『全般に高い』の回答割合が高かった区(千代田、港、中央、杉並、新宿、文京、渋谷)について、<調査1>の結果をみると、すべて、平均以上の指数であった。

4. 年齢別・調査結果⁽¹⁾

<調査2>の中で、居住地区別よりも、年齢別による比較が適当と判断した物について、まとめた結果は次のとおりである。

1) 商品購入に関する実態

(1) 商品の選択基準(図8)

回答者全体でみると、「価格」(64.0%)、「店頭で見て」(58.5%)、「メーカー名」(46.0%)、「広告」(16.0%)、「店員のすすめ」(1.5%)、「その他」(11.0%)という結果であった。

「その他」の内訳は、『口コミ』、『品質』、『機能性』、『鮮度』、『製造年月日』、『安全性』、『環境にやさしい』、『生協のチラシをみて』、『商品によって異なる』等であった。

年齢による違いをみると(回答者の年齢の分布に片寄りがあるため、比較が無理な面はあるが)、「価格」と「店頭で見て」の回答割合は、若年層ほど高く、他の回答については、年代による大きな違いは、特にみられなかった。

なお、「商品テストの結果を参考に」の回答の中に、『耐久財の場合』の記述が若干、存在した。また、「広告」の回答は、さほど多くなかったが、「その他」欄に、『生協のチラシをみて』の記述があったことを考えると、生協を含めた、チラシ広告を参考にした購入者が存在することが考えられる。

(2) 通信販売の利用状況(図9)

回答者全体では、「よく利用する」(6.0%),「時々利用する」(52.2%)をあわせると、6割近い人が利用していることになる。

年齢別にみると、若年層の利用割合が、おおむね高く、「全く利用しない」割合は、高齢になるほど、高くなっている。

なお、「生協利用」を通信販売利用と回答した例が若干存在する。

23区別にみたところ、「よく利用する」と「時々利用する」とを合わせた割合が高かった区(7割以上)は、江東区(88.9%),千代田区(85.7%),中野区(77.8%),港区(71.4%)であった。これらの区は、江東区を除くと、「商店の分布が適当」の回答が0又は、低率であったり、「大型店がない」の回答割合が高い区である(図3参照)。

(3) クレジット・カードの保有状況と利用状況

(図10, 11, 12)

回答者全体の8割(79.0%)の人が、クレジットカードを「持っている」と回答しているが、年代別では、若年ほど、保有割合が多く、70歳以上では、保有者がわずか1名であった。

保有枚数については、多かった順に、2枚(38.0%), 1枚(27.2%), 3枚(18.4%), 4枚(4.4%), 6枚(3.2%), 7枚以上(2.5%), 5枚(1.9%)と、複数枚数の保有者が多い。なお、最高保有枚数は10枚(1名)であった。

カードの利用状況については、「よく利用する」(17.7%)と、「時々利用する」(46.2%)とを合わせると、6割以上の人が利用していることになり、「全く利用しない」は、1割に満たない(7.6%)結果となっている。

保有枚数と利用状況との関係をみたところ、「よく利用する」と「時々利用する」とを合わせた割合は、1枚保有者……44.2%, 2枚保有者……65.0%, 3枚保有者……79.0%, 4枚保有者……85.7%, 5枚保有者……66.6%, 6枚以上の保有者……100%と、保有枚数が多いほど、利用率が高い傾向がみられる。

(2) 経済的負担を感じるもの(図13)

家計費のなかで、負担感の重いものを3つずつ、回答してもらったところ、回答の多かった順は、「教育費」(42.0%),「食料費」(36.5%),「住居費」(27.5%),「光熱・水道費」(26.5%),「交際費」(24.5%),「保健・

医療費」(13.0%),「被服費」(11.5%),「交通・通信費」(10.5%),「教養娯楽費」(10.0%),「家具・家事用品」(2.0%)であった。

年代別では、20代は、「食料費」,「住居費」,「光熱・水道費」,「教養娯楽費」に回答があり、いずれも1名ずつであった。30代の場合は、「家具・家事用品」を除いて、すべてに回答があり、特に、回答が多かったのは、「教育費」(53.4%),「住居費」(41.4%)で、40代は、すべてに回答があり、特に多かったのは、「教育費」(66.2%),「食料費」(52.5%)で、50代の場合も、すべてに回答があり、回答の多かったのは、「交際費」(38.0%),「食料費」(30.9%),「光熱・水道費」(28.5%),「保健・医療費」(21.4%), 60代の場合は、「家具・家事用品」と「教育費」の回答が0で、回答の多かったのは、「交際費」(51.7%),「教養娯楽費」(20.6%), 70歳以上は、「住居費」のみに回答(1名)があっただけである。

なお、「その他」欄に記述されていたものは、『税, 健康保険料, 保険掛け金』(10名),『車の維持費』(5名),『親への仕送り』(1名)である。

家計費の負担感と家族数や住宅条件等との関係を調べたところ、「食料費が負担」の回答割合は、一人ぐらしの場合、12.5%(1名),二人家族の18.4%,三人家族の38.4%,四人家族の33.9%,五人家族の52.4%,六人家族の55.6%,七人家族の75.0%,八人家族は100%(1名)と、家族数が多いほど、「食料費」の負担感が大きいようである。

「住居費が負担」の回答と住宅事情については、『集合住宅の賃貸』の60.0%,『一戸建ての借家』の50.0%,『集合住宅の分譲』の47.7%,『一戸建ての持ち家』の13.7%,『その他(社宅等)』の4%が負担と回答しており、『一戸建ての持ち家』と『社宅等』の負担感が低いという結果であった。居住年数の長短と負担感をみたところ、数字としては、特に違いは認められなかったが、居住年数の長い『一戸建ての持ち家』の回答者の中に、「修理代が大変」の記入があった。

「経済的負担を感じるものはない」の回答は、70歳以上(80.0%),50歳代(23.8%),60歳代(17.2%)が他の年代より高い。

「経済的負担感なし」の回答者の家族数との関係を見ると、一人ぐらしは37.5%,二人家族は23.7%,三人家族は14.3%,四人家族は4.8%,五人家族は19.0%,六人家族は5.6%,七人家族および八人家族は共に0と、

家族数の多少と経済的負担の関係がみられる。

また、「経済的負担感なし」の回答者の住宅条件をみたところ、『一戸建ての持ち家』……15.7%、『一戸建ての賃貸』……0%、『集合住宅の分譲』……11.4%、『集合住宅の賃貸』……4.0%、『その他（社宅等）』……16.0%という結果であり、住宅条件と経済的負担感とは、若干関係があるといえそうである。

＜まとめ＞

東京都では、都の区分を7つのエリアに設定することを提案しているが、その中、23区については、①「区部中心部」（千代田、中央、港、新宿、渋谷、文京、台東、墨田、江東、豊島の10区）、②「新山の手」（世田谷、杉並、中野、練馬、品川、目黒、大田、板橋の8区）、③「川の手」（北、江戸川、荒川、足立、葛飾の5区）の3つの分類となっている。（図14）⁽²⁾

23区の3つのエリア別に、価格調査＜調査1＞の結果を比較したところ、「区部中心部エリア」とされる10区の場合、12品目の平均値の指数は、港、千代田、中央、渋谷、文京、新宿、台東の7区が平均を上回っており、豊島区は、ほぼ平均的、墨田と江東の2区は平均を下回る結果であった。

「新山の手エリア」とされる8つの区については、品川、目黒、大田、杉並が平均を上回り、中野区は、ほぼ平均的、板橋、世田谷、練馬は平均を下回っている。

「川の手エリア」とされる5つの区は、いずれも、平均を下回り、荒川区を除いた4区の指数は、いずれも80台で、物価が最も低い地域という結果である。

＜調査1＞の結果と＜調査2＞の結果との比較では、＜調査2＞の「住み心地」項目の『物価が高い』の回答が高率であった、港、千代田、中央の3区については、＜調査1＞の結果も「物価が高い」結果となっており、＜調査2＞の『物価が安い』の回答が高率であった、荒川、葛飾、板橋、足立、江戸川、江東の6区は、＜調査1＞の結果においても、同様の傾向がみられ、＜調査1＞と＜調査2＞との結果は一致している。

日常の買い物と商店の分布状況については、「商店の分布」が『適当』の回答割合が低率（平均以下）であった区をエリア別にみると、「区部中心部エリア」は9区（90.0%）、「新山の手エリア」は3区（37.5%）、「川の手エリア」は2区（40.0%）と、エリアによる違いが認められる。

「住み心地」項目の『快適』の回答が過半数を占めた区は、23区中14区（6割）であったが、これをエリア別にみると、「新山の手」が最も多く（7区＝87.5%）、次いで、「区部中心部」（5区＝50.0%）、「川の手」（2区＝40.0%）と、物価が低い「川の手」の『快適』の割合が低い。

快適か否かは、物価の高低の問題ばかりでなく、『空気が悪い』、『車が多く、安心出来ない』、『日当たりが良くない』などの環境問題が、「住み心地」の判断に関係しているようである。

エリア別の特徴は、物価の面では、「川の手エリア」が勝っており、住み心地全般では、「新山の手エリア」が勝っているといえそうである。

なお、「快適さ」と「居住年数」との関係について調べたところ、居住年数の長短と快適さとの関係は、特に認められず、「住めば都」は、かならずしも、居住年数の長さとは関係がなさそうである。

年代別での比較を試みた、「商品の選択基準」については、『商品の種類および時と場合によって異なる』など、選択基準の回答が難しかったようではあるが、調査時期が「価格破壊ブーム」であったことも関係したのであろうか、「価格」を選択基準にするという回答が最も多い結果であった。また、「メーカー名」の回答も少なからず存在し、「ブランド信仰」健在といった傾向がみられる。

なお、耐久消費財の購入の場合には、「商品テストの結果を参考にする」傾向があり、価格が高く、しかも、長期間使用するものの購買態度は、慎重になると思われる。

「通信販売を利用する」割合は、年代別では、若年層が多く、居住区の別では、「商店の分布」状況が『適当』の回答割合が少なかった区の利用が多い傾向にある。

「クレジット・カードの保有および利用状況」については、カード時代であることを証明するように、保有者の割合は8割で、利用状況は、複数枚数の保有者ほど、利用率が高い傾向がみられた。

「家計費の負担感」については、年代による違いがみられ、特に30代と40代の負担感が重く、費目別では、30代は、「教育費」、住居費、40代は「教育費」、食料費、50代と60代は「交際費」が他の年代よりも、負担に感じる割合が多い結果であった。

「経済的負担感なし」の回答割合は、子育て期を過ぎ



《23区別・調査結果》

- ※「住み心地」項目の『快適』が過半数の区.....○
- ※「住み心地」項目の『物価が高い』が過半数の区.....▲
- ※「住居地の物価」の『全般に高い』が過半数の区.....↑
- ※「住居地の物価」の『全般に安い』が過半数の区.....↓

た年代で、しかも、家族数が少ないほど高い傾向がみられた。

以上の結果から、①生活実態は、区によって、かなり異なり、「都区部」と一括して、云々することは、無理があること、②年齢別に分析した、「通信販売」、「クレジット利用」、「経済的負担感」は、年代による違いがあることが認められた。

〔付記〕

当論文は、「平成7年度特別研究費」の援助を受け、平成8年11月16日、日本生活学会において、口頭発表したものに基づき、まとめたものである。

注

- 1) はじめの目的は、23区別比較であったが、年齢別の比較の方が、生活実態の把握となると考えた内容について、年齢別に分析したため、テーマと一致しない点を申し添えたい。
- 2) 東京都の区分については、東京都政策報道室計画部編『生活都市東京構想』（平成2年2月発行）にまとめられている。